

日本幼児飛行機獻納貯金の第一回提唱に就て

日本幼児飛行機獻納第一回募集は、二月末日をもつてソ切りのことになつて居りましたが、その後も引きつき御送金が絶えず、三中旬において約三万五千圓を超えてゐます。御送金と同時に送られた幼児、職員、父兄各位の御熱誠の數々と共に、私共係りの者を毎日感奮興起せしめてゐるのでござります。如何に貴い獻金であるかといふことを今更のやうに痛感いたして居ります。

空飛ぶ爆音を聞いては、「先生、幼児號はいつ飛ぶの?」「幼児號早く飛ぶといふの」の幼児の質問や會話にはいたく胸を打たれ、又、地方の同志の方々から寄せられる「是非幼児號一機を」との強い御熱意には、本會の初志を強く激励せられぬません。

この全國から獻納金を一回毎に獻納致すべきか、或は續いて第二第三回をも計畫的に募集して、幼児號一機として纏めて獻納致すべきか、本誌四月號に於て各園御献金の委細發表と同時に御報告致す豫定であります。そこで本號に於て取り敢へず第二回にも増して多大の御熱誠を寄せられんことを希つて止みません。

規 定

各園で、幼児の飛行機貯金を計畫的に實行して下さい。

各園名(所)在地、代表者名も明記し、本會へ(東京都小石川區大塚町三十五、東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)日本幼稚園協會宛お送り下さい。必ず振替口座(東京一七二六六)をお使い下さい。臺灣の方は必ず電報爲替にお願ひ致します。そして「飛行機獻金」と必ず附記して下さい。

第二期切は昭和十九年五月末日とします。

全體なまごとめ陸海軍に獻納します。

別に御寄託各園名を別列記します。

受領證を差上げず、納獻完了と共に、本誌昭和十九年七月號に發表します。

一切の費用は本會の負擔とし、御寄託の金額全部を獻納します。

昭和十九年三月

日本幼稚園協會
(責任者 倉橋惣)